

大会宣言

今から68年前の昭和22年5月25日、ここ群馬県の伊香保温泉に全国から200人を超えるろうの仲間が集い、連盟を立ち上げました。物資は不足し、交通機関の復旧も十分ではない戦後の混乱の中でのことです。戦前のろう者の全国組織であった日本聾啞協会が戦争によって解散させられ、最も混乱を極めた時代に仲間とのつながりを断たれ孤立してきた彼らの不安と心細さは、想像を絶するものであったと言えましょう。

多くの困難を乗り越え切実な思いから生まれた組織の絆は強く、私たちはこれまで、障害者を差別する欠格条項の撤廃をはじめ、聴覚障害者福祉に関わる制度の創設や改革など、多くの成果をあげてきました。そして今、手話が言語であることは社会の共通認識となりつつあります。昨年度、特に力を注いだ手話言語法の制定を目指す運動では、自治体による意見書採択数は100%近くに達しました。同時に手話言語条例を制定する自治体も20を超え、手話の普及やろう者に対する理解がこれまでにない勢いで広まっています。ここ群馬県でも今年3月12日に「群馬県手話言語条例」が制定され、この記念すべき大会にさらなる喜びをもたらしてくれました。ろう者が自由に思いを伝えあえる言語である手話が社会に普及することで、ろう者の社会への完全参加と平等が促進されるのです。

私たちはこの大会で、ろうあ運動の原点であるここ群馬県に全日本ろうあ連盟結成記念碑を建立しました。この記念碑には先人から受け継いだ「ろう者の人権を守る」ろうあ運動の精神への思いが込められています。この大会で、その思いをあらためて自らの胸に深く刻みこみ、社会にたゆまず働きかけていくことを誓います。

2015年6月14日

第63回 全国ろうあ者大会